

きまもり／収穫のあとに、1つだけ木に残しておく柿の実や柚子の実、かぼずの実などをいう。来年もよく実がつくようにという祈り、あるいは小鳥のために残しておくともいわれる。

らしく

自分らしく、
粋なくらし

CLOSE UP

スポーツを通じた地域活性化

CARP LIFEプロジェクト

広島東洋カープを中心に人とつながり、まちの活性化に

スポーツによる地域活性化プロジェクト(広島経済大学興動館プロジェクト)

大学生とスポーツチームの連携で広島を盛り上げる

NPO法人広島トップスポーツクラブネットワーク

スポーツ王国だからこそできる連携でまちづくりに貢献



連載

▶Hm助成支援団体のご紹介 ▶人材バンク 名人 宝人 達人 ▶ようこそ!公民館へ〜西区内公民館〜

▶らしくレポート ひろ記者が行く・神楽衣装に触れる一日体験会 in 本川小学校 ▶らしくコラム・スポーツと地域活性化

▶情報の森 ▶プラザ通信



広島東洋カープを中心に 人とつながり、まちの活性化に

平成26年10月15日「カープの日」

CLOSE
UP

スポーツを通じた地域活性化

広島はプロ・アマチュアともスポーツの盛んな地域です。スポーツを通してさまざまな活動をする団体を紹介します。

CARP LIFEプロジェクト

<https://www.facebook.com/carplifeproject/>

大好きなカープを通して社会貢献ができる喜び

平成26年8月に、「ひろしま未来交流会」のメンバー、松原裕樹さん、川崎陽子さん、藤森聡さんの3人が中心となって作ったのが「CARP LIFEプロジェクト」です。

「ひろしま未来交流会」は同年6月に、NPOや行政の有志が集まって、広島の活性化について議論を交わす目的で結成された会です。「その会で話し合いを重ねる中で、世代を超えて共通の話題になる広島東洋カープをテーマにして何か取り組みをしたら、広島がもっと盛り上がるのでは、という意見が浮上。具体的な企画として、さまざまな理由でカープの試合観戦に行けない子どもたちやその家族にチケットをプレゼントする活動と、フリーペーパーの発行を行うことになりました」と松原裕樹さんは語ります。

立ち上げたメンバーの3人に、その後5人が加わり8人を中心に活動を本格化。まずは、カープファンからの寄付により子どもたちをカープの試合観戦に招待して元気づける活動を柱とし、カープが球団草創期に資金難に陥った際に行った「たる募金」を参考に

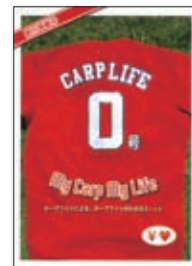
酒樽を使った募金樽をイベント会場等に置いて寄付を募りました。また、イベント会場等に来られない人も参加できるよう、インターネットの「クラウドファンディング」でも呼びかけました。そうして集まった資金を元に、広島市母子募婦福祉連合会などを通して、平成27年は2試合に15人を、平成28年は4試合に17人を、MAZDA Zoom-Zoomスタジアム広島で行われたカープの試合へ招待しました。「普段はなかなか試合を観ることのできない子どもたちが、



▲ フリーペーパー「CARP LIFE」編集会議の様子

実際に球場で観戦をすることで、その迫力に感動し、喜ぶ姿を見ると、広島だからこそ出来る活動だとあらためて感じました」。

また、もう一つの柱となる取り組みとして、プロジェクトの活動PRをするフリーペーパー「CARP LIFE」を制作、発行。選手にスポットを当てるのではなく、カープファンを主役に位置づけ、球場に試合観戦で訪れたファンに寄稿してもらったり、招待した子どもたちの感想を掲載するなど独自の視点で構成。メンバーが定期的に集まって企画を考え、取材に駆け回り、メンバー自身も楽しみながら作っています。平成26年10月に創刊準備号を発行後、平成27年10月に創刊号を、平成28年10月に第2号を発行し広島市内の飲食店などで配布しています。「カープを取り上げるメディアが無数にある中で、フリーペーパー「CARP LIFE」は、一般のファンの人たちからも共感を得ることができるようなファン目線の存在になるようにしています。また大好きなカープを通して、社会貢献ができることに喜びを感じています」。



▲ フリーペーパー「CARP LIFE」
創刊準備号
創刊号、第2号

世代を超えて盛り上がるカープで人やまちを元気に

昭和50年10月15日、カープが球団史上初のリーグ優勝を果たした日を初優勝記念日として、10月15日に多くのカープファンと一緒に、赤いものを身につけて祝う「カープの日」と名付けたイベントも平成26年から開催。初優勝を遂げた午後5時18分に記念のカウントダウンを行う他、カープ関連の紙芝居や応援歌ライブなどの催しや、フリーペーパー「CARP LIFE」の配布をしています。

「広島には、世代を超えて熱くなれるカープという存在があります。今年、25年ぶりにリーグ優勝を成し遂げて広島は盛り上がり、人やまちが元気になったような気がします。元になれば、笑顔も生まれるし、その笑顔と笑顔が繋がれば、今以上に人を思いやる気持ちも出てくると思います。もっとそんなまちになるように、私たちがカープファンを応援することで少しでも地域活性化や、社会に貢献できればと考えています」。

松原さんが最後に語ってくれた言葉に、カープを通して広島のまちを活性化させようとする夢を感じました。



▲ 現在の共同代表を務める、川崎陽子さん(左)、松原裕樹さん(中)、向井聖美さん(右)の3人

c o n t e n t s

- 01 特集**
スポーツを通じた地域活性化
 - ▶ CARP LIFEプロジェクト
 - ▶ スポーツによる地域活性化プロジェクト
 - ▶ NPO法人広島トップスポーツクラブネットワーク
- 05 Hm助成支援団体のご紹介**
 - ▶ プチポカ会
 - ▶ プラットホーム安芸飯室運営委員会
 - ▶ 美鈴が丘西集会所管理委員会
- 07 人材バンク 名人 宝人 達人**
 - ▶ 大下政江さん
 - ▶ 一般社団法人 農・食・医同源研究センター
- 09 ようこそ! 公民館へ・西区内公民館**
- 10 らしっくレポート ひろ記者が行く**
 - ▶ 神楽衣装に触れる一日体験会 in 本川小学校**らしっくコラム**
 - ▶ スポーツと地域活性化
広島大学大学院 教育学研究科
東川 安雄 教授
- 11 情報の森**
- 15 プラザ通信**



【表紙写真】カープの試合観戦招待の様子

大学生とスポーツチームの連携で広島を盛り上げる

スポーツによる地域活性化プロジェクト(広島経済大学 興動館プロジェクト)

http://www.hue.ac.jp/koudoukan/project/participation/project_a.html

学生主体で取り組む、 広島だからこそできるプロジェクト

平成18年6月、広島経済大学の学生によって「スポーツ王国・広島に拠点を置くスポーツチームを盛り上げ、広島の地域活性化につなげることを目的に立ち上げた興動館プロジェクト」のグループが「スポーツによる地域活性化プロジェクト」です。

グループで計画の実現に取り組み、社会で必要とされる力を育むのがプロジェクトの最大の目標。「今は、広島に住む人たちにスポーツに対して興味や関心を持ってもらい、観戦のきっかけづくりのために、選手を招いた応援イベントや観戦会等を自分たちで企画・運営しています」と語るのは、この活動に引かれて山口県から入学したプロジェクトリーダーの谷本峻さん。当初は6人の学生でスタートしましたが、平成28年は65人の学生が在籍。学生たちを、企画、運営、広報の3つのグループに分けて活動しています。「グループに分かれて活動することで、学生それぞれが主体的に責任をもって考え行動します。その経験は将来社会で働く時にもきっと役立つと思います。企画をきちんと立案、提案できれば運営する側も負担なく実施することができます。また広報も、どうしても多くの人たちに自分たちの活動に興味をもってもらえるのか、考える力を養うことができます」と谷本さん。

プロジェクトスタート以来、広島東洋カープ、サンフレッチェ広島、JTサンダーズ、広島ドラゴンフライズの試合を広島市内の大学生に呼びかけ一緒に観戦したり、応援イベントを実施。他にも、サンフレッチェ広島やアンジュヴィオレ広島のホームゲームの運営サポートにも携わったことがあります。

実社会の現場で得た経験が、 一人一人の将来の糧となる

また、広島県の8競技9団体のスポーツチームが、地域密着や活性化に貢献する活動を行っている「トップス広島」とも連携。メンバーが、トップス広島の各スポーツチームの活動を伝える情報紙「トップスニュース」の取材や原稿制作に隔月で取り組んでいる他、公式ホームページの運営にも携わっています。「トップス



▲メンバーの皆さん

広島の活動は、メンバーを各スポーツチーム担当に分けてもらっています。トップレベルのスポーツチームへの取材は責任が重く、難しい事もありますが、各チームの方に協力していただき原稿作成等していくことは、学生にとって大きな経験になっています。ニュース素材をどう見せたら、魅力溢れる内容を伝えることができるのか、日々考えながら作っています」とは、トップス広島との連携をまとめている副リーダーの城本嵩巳さん。

さらに、大学近隣の地域住民と、スポーツを通じた交流を図っているのもこのプロジェクトの特徴です。平成27年から、小学生を対象にしたサッカー大会「FLPカップ」を大学の人工芝のグラウンドで開催。大会の企画、運営、広報までをメンバーで実施しています。子どもたちに人工芝のグラウンドでのびのびとプレーできる喜びを感じてもらい、同時に、保護者の方には子どもが元気に活躍する場を間近に見ることで、改めてスポーツの魅力を感じてもらおうのが狙いです。

今後の活動について「トップス加盟チームを中心に、広島のプロスポーツチームのさらなる知名度向上を目指し、選手とのふれあいイベントを運営したり、学生ならではの目線でニーズの提案を行っていききたいです。また、スポーツを通じた地域貢献・活性化にもこれまで以上に取り組んでいきたいです」と、谷本さんと城本さんは語ってくれました。夢に向かってチャレンジする若い力に、大きな可能性を感じました。



▲平成28年10月第2回FLPカップの様子



▲広島ドラゴンフライズ応援イベントの様子



▲サンフレッチェ広島観戦会

スポーツ王国だからこそできる連携でまちづくりに貢献

NPO法人広島トップスポーツクラブネットワーク(トップス広島)

<http://www.tops-h.net/>

競技の垣根を越え 「オール広島 オール・スポーツ」の 実現を目指す

平成12年、「オール広島 オール・スポーツ」をスローガンに発足し、平成16年にNPO法人化されたのがNPO法人広島トップスポーツクラブネットワーク(トップス広島)です。広島に拠点を置くトップレベルのスポーツチーム4競技5クラブで結成されました。

「きっかけは、平成8年に打ち出された「Jリーグ百年構想」に共鳴し、Jリーグ・Vリーグ・ハンドボールリーグ・バスケットボールリーグの4競技のリーグのクラブが連携交流を進めていくことで、地域に根ざしたスポーツクラブの創設を目指したモデル地区に広島が選ばれたことです。すべての広島の人々が、すべての広島のスポーツ(チーム・選手)を応援するような、郷土愛あふれる広島の実現を目指すこと。そして、地域の活性化に貢献することや、地元のスポーツクラブがお互いの連携を深めることなどを目的にトップス広島は発足しました」と語る事務局長の入船信之さん。スポーツの振興、子どもの健全育成、まちづくりの推進、この3つを活動の柱とし、現在はサンフレッチェ広島、JTサンダーズ、ワクナガレオリック、広島メイプルレッズ、広島ガスバドミントン部、NTT西日本広島ソフトテニスクラブ、中国電力陸上競技部、コカ・コーラウエストレッドスパークスホッケー部、広島東洋カープの8競技9クラブが加盟しています。

認知度を上げて 地域との交流や社会貢献に取り組む

活動の1つに、加盟チームの選手やコーチが広島市内の小学校へ出向いて、5・6年生を対象に体育の授業等で広島市教育委員会と協力し直接指導を行う「Doスポーツ指導者招聘事業」への派遣があります。毎年約70校を訪れ、この15年間で約1,000校を訪問しています。日頃、接する機会のないトップレベルのスポーツ選手から直接指導を受ける貴重な経験を通して、子どもたちにスポーツの楽しさや喜びを感じてもらいたいそうです。



▲小学校でのホッケー教室の様子

また、各クラブが競技の垣根を越えて、お互いの試合を観戦し応援する相互交流や、広島市の各区役所とスポーツセンターが中心となって、それぞれの区に拠点を置くクラブと連携。区民が、クラブの試合を観戦して応援体制を作っているほか、区内のスポーツセンターでスポーツクリニックを開くなど、地域交流も盛んです。他にも、フラワーフェスティバルなど広島県内各所で行われるイベントに、各クラブの選手が積極的に参加。各スポーツの普及と合わせて、トップス広島のPRも務めています。

「現在は、スポーツ王国広島を代表するプロチームやクラブも加盟し、トップス広島の認知度が上がったことにより地域貢献、社会貢献も進んでいます」。

そして、さらに認知度を上げるために、ホームページでの広報活動や、加盟クラブの情報をまとめた広報誌「トップスニュース」を毎月発行。これは広島経済大学興動館の「スポーツによる地域活性化プロジェクト」が編集協力をし、地域の学生とも交流しています。また、広島市内をはじめ県内22ヵ所に加盟クラブチームのロゴマークをしるした支援自動販売機の設置も行っています。「今後は、スポーツ振興の観点から、まちのにぎわい創出にも協力していきたいです。トップス広島に加盟するクラブを広島の宝として活用することで、より地域と密着した賑わいが生まれる可能性も秘めています。それがスポーツの新たな魅力発見につながり、選手にとっても大きな刺激になると考えています」と入船さんはスポーツが持つ大きな可能性について語ってくれました。



◀広島市南区民による
応援の様子



▲事務局長の入船信之さん